

資料編

- P142 会社概要
- P144 役員紹介
- P146 役員任期一覧
- P149 東武鉄道路線図
- P150 数字に見る東武鉄道
- P152 数字に見る東武グループ
- P154 東武グループ 主要経営指標の推移(連結)
- P156 グループ会社の取り組み
- P162 沿革図
- P163 年表 1997-2024



会社概要

社名	東武鉄道株式会社 TOBU RAILWAY CO.,LTD.	事業内容	① 鉄道、軌道および索道による一般運輸事業 ② 自動車運送事業 ③ 不動産の売買、賃貸借ならびにその仲介、鑑定および管理の事業 ④ 情報提供・処理サービス業、電気通信事業および有線放送事業 ⑤ 娯楽、スポーツおよび教育機関の経営ならびに旅館業、飲食業、物品販売業、旅行業および広告業その他のサービス事業 ⑥ 土木・建築・造園・電気工事の設計・施工請負事業 ⑦ 発電および電気の供給事業 ⑧ 前各号に附帯または関連する事業
設立	1897(明治30)年11月1日		
本店所在地	東京都墨田区押上一丁目1番2号		
本社事務所	東京都墨田区押上二丁目18番12号		
資本金	1,021億3,597万1,747円		
従業員数	3,280人（2024年3月31日現在）		
鉄道営業キロ	463.3km		

東武グループ経営理念

東武グループでは、「奉仕」「進取」「和親」を経営の拠り所としています。

奉仕

東武グループは、東武グループの全ての事業が社会に支えられていることを深く自覚し、豊かな社会の実現に貢献します。

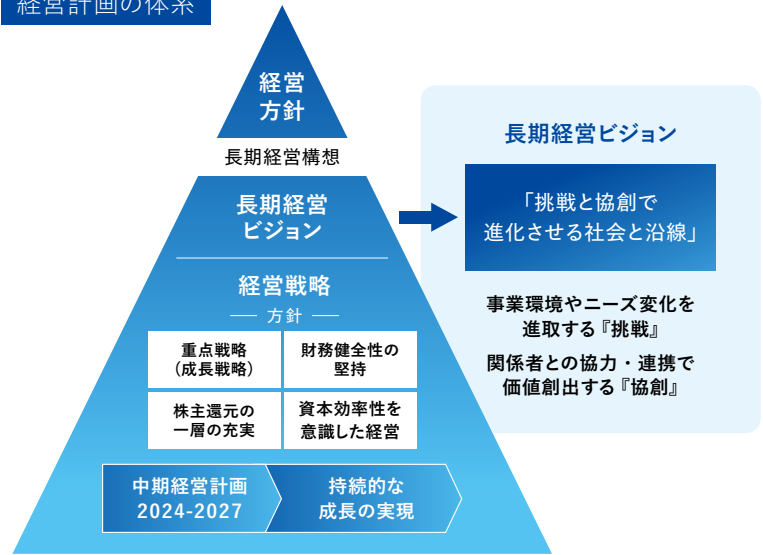
進取

東武グループは、現状に甘んじることなく、常に研鑽に励み、時代を切り開く開拓者精神をもって新たな挑戦を続けます。

和親

東武グループは、人の和や環境との調和をもとに事業の発展と従業員の幸福を図り、社会の進展に寄与します。

経営計画の体系



“人にやさしく 人と地域が共に輝きつづける社会”の実現へ

東武グループ経営方針

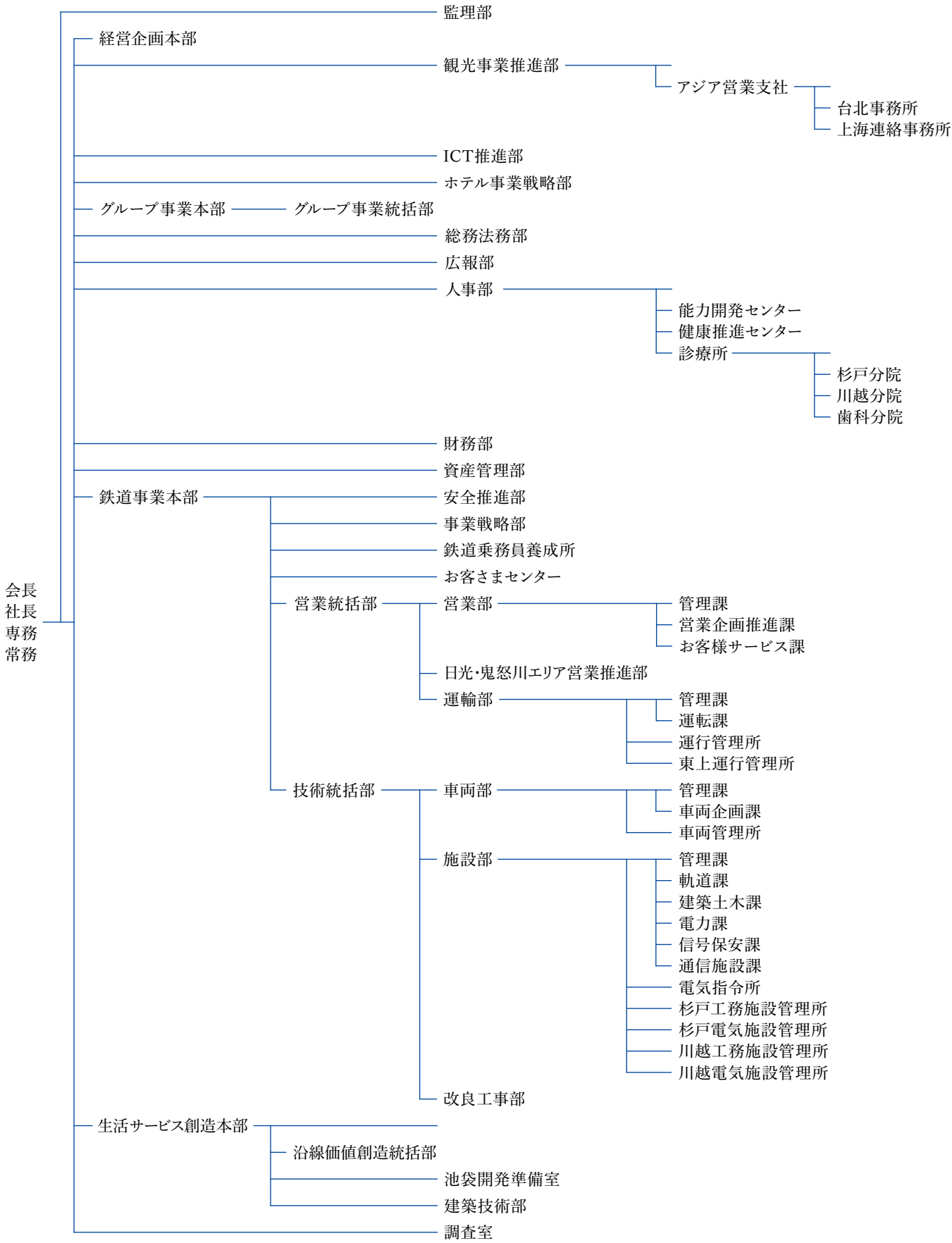
- お客様の暮らしに密着した事業を通じて沿線地域の発展に貢献する企業グループとして、安全・安心を根幹に「運輸」「レジャー」「不動産」「流通」等の事業を多角的、複合的に展開します。
- お客様の視点に立ち、質の高い先進性や独創性あふれるサービスを提供し、活力に富んだ暮らしやすく訪れたい東武沿線の実現を目指します。
- 事業を通じて安定的に利益を創出しながら、環境にも配慮した経営を進め、お客様の生活を担う企業グループとして地域社会とともに持続的に発展することにより、企業の社会的責任を果たします。

長期経営ビジョン実現に向けた経営戦略方針

－10年後を見据えた3つの方針－

- ① 営業利益段階における非鉄道事業割合の増加**
「観光事業」「開発（まちづくり）」を成長領域と位置付け、重点的に投資を行うことで、非鉄道事業を強化し、中長期的な収益・利益拡大に資する事業の育成と領域の拡張を図る。
- ② 観光需要を捉えた収益力の強化**
東武グループ全体を挙げた「事業拠点強化・サービス構築・ブランディング・情報発信」により、インパウンドや多様化する国内旅行などの観光需要を取り込み、収益の最大化を図る。
- ③ 持続的な事業運営体制の確立**
国内人口と労働力減少への対応・環境負荷の低減・人的資本の強化を図り、持続可能な運営体制を構築する。

組織図



監査役

(2024年11月1日現在)

役員紹介



2024年8月撮影



① 代表取締役会長 根津嘉澄
② 代表取締役社長 都筑 豊
③ 取締役 横田芳美
④ 取締役 重田敦史
⑤ 取締役 鈴木孝郎

⑥ 取締役 柴田光義
⑦ 取締役 安藤隆春
⑧ 取締役 矢々崎紀子
⑨ 取締役 柳 正憲
⑩ 常勤監査役 杉山知也

⑪ 常勤監査役 吉田辰雄
⑫ 監査役 茂木友三郎
⑬ 監査役 福田修二
⑭ 監査役 林 信秀

執行役員

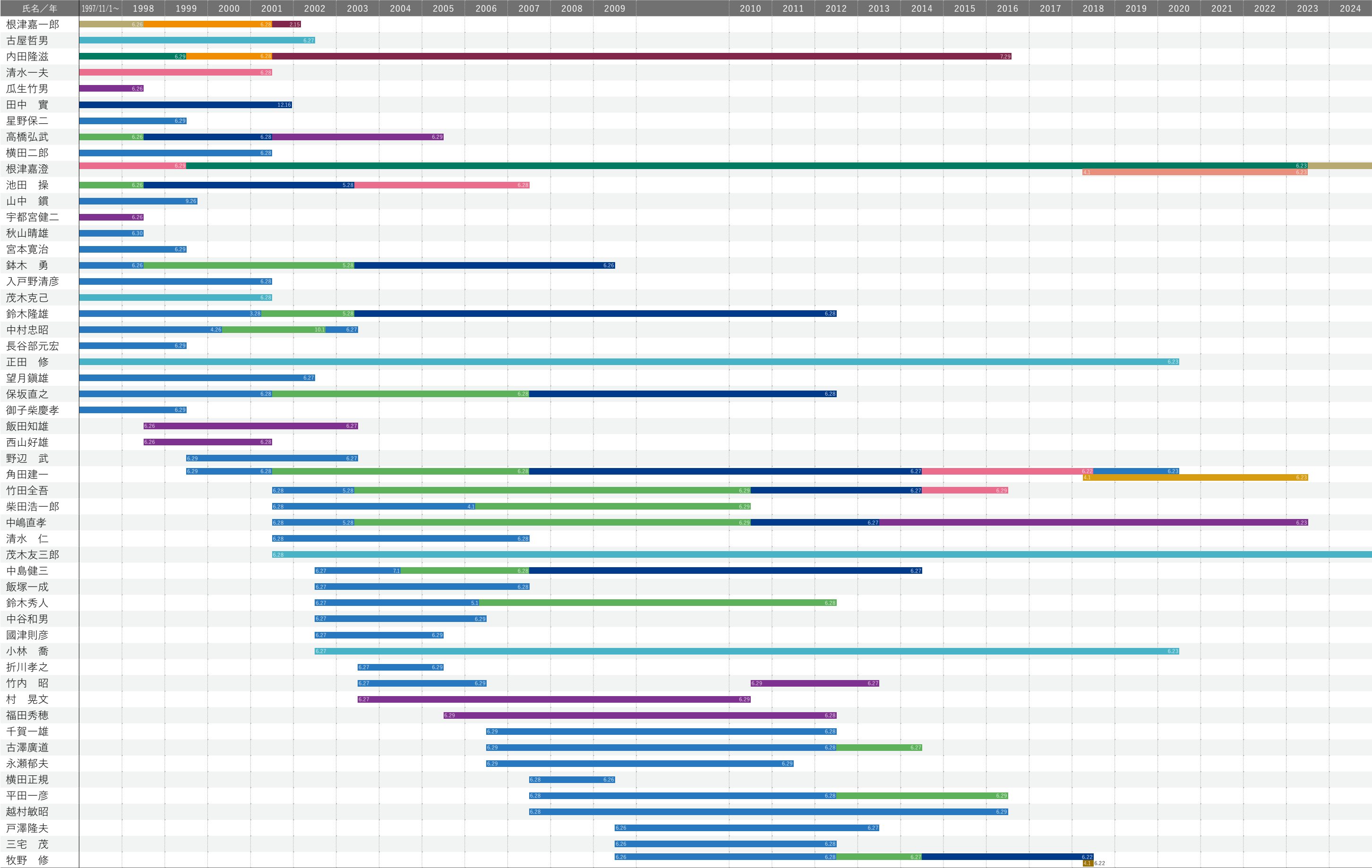
社長執行役員 都筑 豊
専務執行役員 横田芳美
常務執行役員 山本 勉
常務執行役員 重田敦史
常務執行役員 鈴木孝郎
常務執行役員 岩澤貞裕

常務執行役員 福原秀之
常務執行役員 岩瀬 豊
執行役員 田邊哲也
執行役員 高月京子
執行役員 中山康二
執行役員 志村 健

執行役員 青柳健司
執行役員 前田隆平
執行役員 柏倉則行
執行役員 岩廣哲典
執行役員 渡辺隆史
執行役員 竜江義玄

役員任期一覽

- 取締役会長
取締役社長
社長執行役員
取締役副社長
- 副社長執行役員
専務取締役
専務執行役員
常務取締役
- 常務執行役員
取締役
執行役員
取締役相談役
- 相談役
常勤監査役
監査役
執行役員待遇



役員任期一覧

- 取締役会長

取締役社長

社長執行役員

取締役副社長
- 副社長執行役員

専務取締役

専務執行役員

常務取締役
- 常務執行役員

取締役

執行役員

取締役相談役
- 相談役

常勤監査役

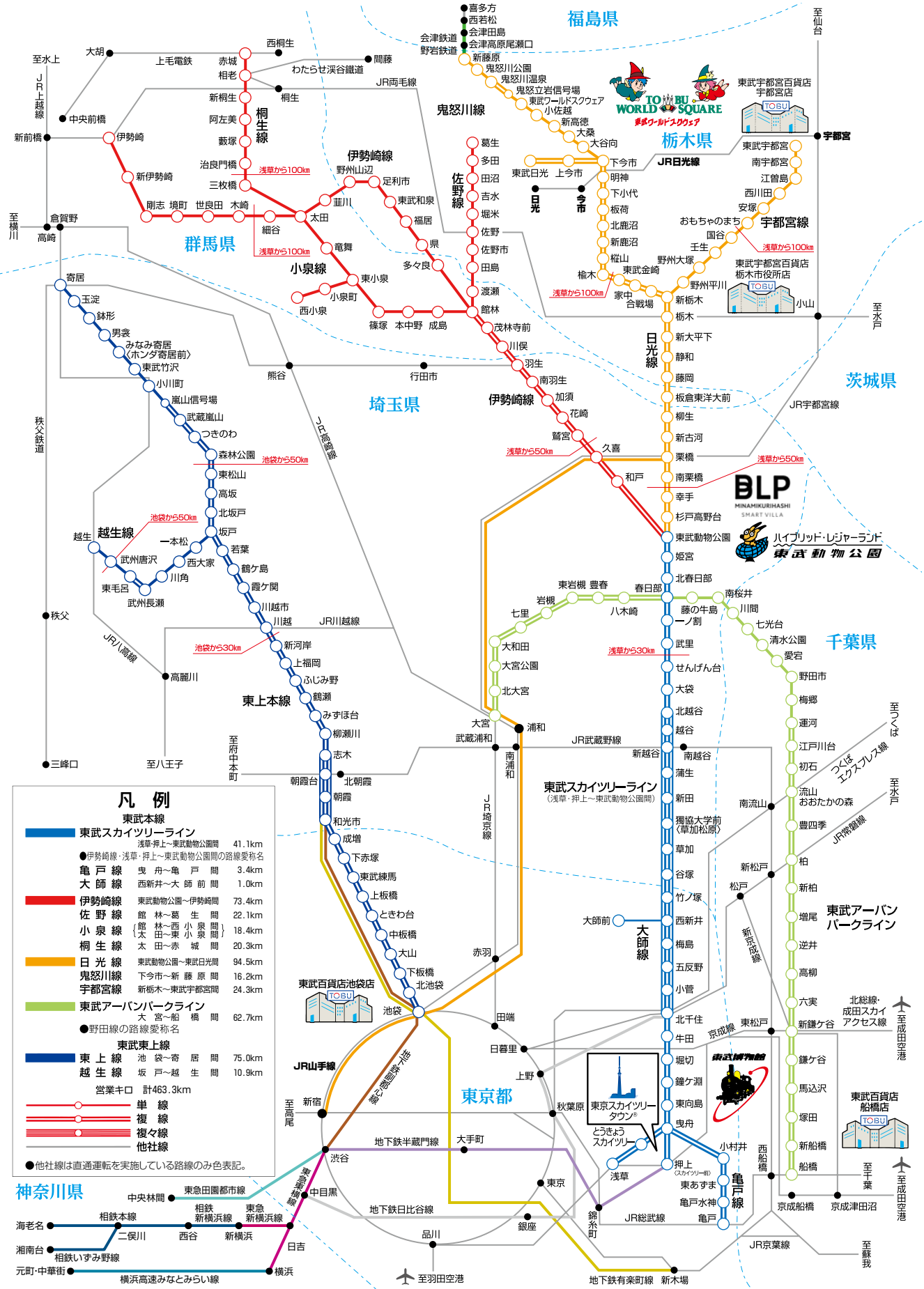
監査役

執行役員待遇

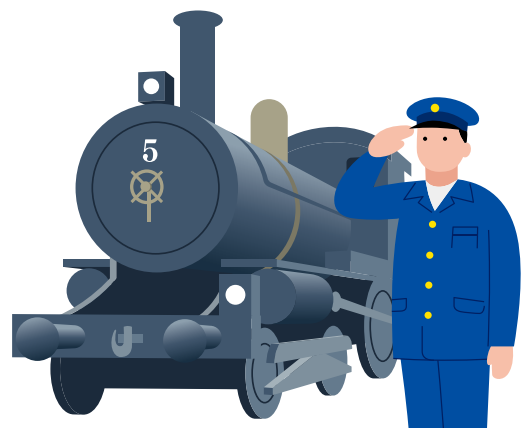
氏名／年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
大垣雅則	5.29		6.27												
猪森信二	5.29		6.28	6.27					6.22	4.1	6.22				
豊田郁夫		5.29	6.28												
三輪裕章		5.29													
大勝規好			5.28		6.26										
小代晶弘			5.28			6.29			6.22	4.1	6.22		6.23	6.23	
坂巻伸昭			5.28		6.26										
鈴木道明				5.27	6.26										
岩瀬 豊				5.27				6.23						4.1	4.1
大熊康義					5.27				6.22	4.1	6.21				
都筑 豊						6.26		6.23	6.22	4.1	6.21		4.1	6.23	
横田芳美						6.26		6.23	6.22	4.1				6.23	
関口幸一						6.26		6.23	6.22	4.1	6.22		6.23	6.23	
矢ヶ崎紀子					5.26			5.31				6.23			
小野寺敏明						5.29			4.1	6.22		6.23		6.23	
大塚博哉						5.29			4.1	6.21		6.23	6.23		
野本弘文						5.29			6.22						
小檜山 隆							6.23		4.1	6.22		6.23			
山本 勉								6.23	4.1	6.22				6.23	
柴田光義									6.22						
安藤隆春									6.22						
吉田辰雄									4.1					6.23	
丸山真人									4.1	6.21					
丹羽茂美									4.1		6.23				
鈴木熊野									4.1		6.23				
宮田 浩									6.22		6.23				
吉野利哉									6.22	6.21		6.23	6.23	6.23	6.21
野口育男										6.21	6.23				
杉山知也										6.21					
高野寿久										6.21					
木村吉延										6.21					
田邊哲也										6.21					
重田敦史											6.23	6.23			
柳 正憲											6.23				
福田修二											6.23				
林 信秀											6.23				
石附栄一											2.26	6.23			
福原秀之											6.23			4.1	
岩澤真裕											6.23	6.23	6.23	6.23	
鈴木孝郎											6.23	6.23			
眞島 朗											6.23		3.31		
高月京子											6.23				
中山康二												6.23			
志村 健												6.23			
衣川裕司												6.23	6.21		
本保芳明												6.23	6.23		
伊藤克俊													4.1	3.31	
青柳健司													4.1		
前田隆平													6.23		
柏倉則行														4.1	
岩廣哲典														4.1	
渡辺隆史														4.1	
竜江義玄														4.1	

東武鉄道路線図

(2024年11月現在)



数字に見る東武鉄道



設立

1897年

東武鉄道は、栃木県南西部と群馬県南東部にまたがる両毛地域で産出した生糸の鉄道輸送を通じた地域産業の発展を支援することなどを目的に1897年に設立した。1899年に北千住～久喜間の営業を開始して以降は、運輸事業のほか、不動産事業、レジャー事業、流通事業などの分野にも進出し、地域経済成長の一翼を担ってきた。



車両数

1,775両

車両数は特急車両が157両、一般・通勤用車両が1,616両、内燃機関車が2両の計1,775両(2023年度末現在)。2023年には新型特急「スペーシア X (N100系)」を導入するなど、利用者の感動体験提供にも努めている。



資本金

1,021億円

資本金は1,021億円(2023年度末現在)であり、1897年設立時の265万円から着実に事業を拡大してきた。

従業員数

3,280人

平均年齢

48.1歳

平均勤続年数

27.1年



従業員数は3,280人で平均年齢は48.1歳、平均勤続年数は27.1年(2023年度末現在)。「採用」「育成」「能力発揮・定着」の3つの戦略的アプローチとその連携により、自ら考え自ら行動できる人材の育成を目指している。

鉄道営業キロ

463.3 km

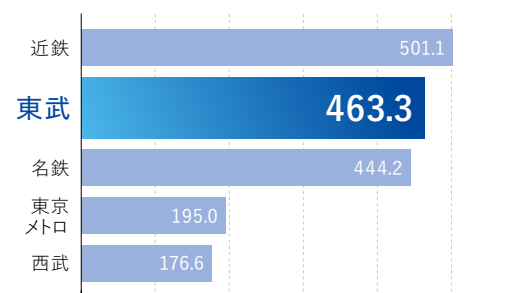
鉄道営業キロは463.3kmで、これは東京から岩手までの直線距離とほぼ同じ長さ。全国の手民鉄で2位、首都圏では1位の営業キロを誇る。東武鉄道は関東圏を広くカバーしている。



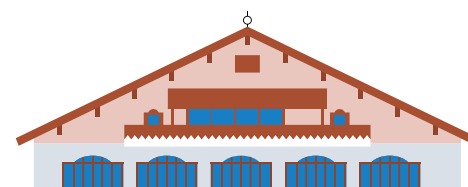
都県別鉄道営業キロ

埼玉県	175.2km
栃木県	136.1km
群馬県	81.2km
千葉県	40.6km
東京都	30.2km

大手民鉄の鉄道営業キロ(上位5社)
(2023年度末、単位: km)



※軌道線、第2種鉄道事業を含む



駅数

207駅

市町村別所在駅数

日光市(信号所含む)	14駅	春日部市	8駅	墨田区	7駅
栃木市	10駅	佐野市	8駅	柏市	6駅
足立区	9駅	板橋区	7駅	越谷市	6駅
太田市	9駅	さいたま市	7駅	野田市	6駅

1都4県(東京、埼玉、栃木、群馬、千葉)の総駅数は207駅(旅客駅205)。市町村別の所在駅数は日光市が14駅と最も多く、次いで栃木市が10駅と栃木県内の駅数が実は多い。その次に東京都足立区、群馬県太田市が続く。浅草、東京スカイツリータウンや日光・鬼怒川エリアといった観光地のほか、地方都市や子育て世代に人気の住宅街など多彩なエリアを有している。

輸送人員

8億3,692万人

運賃収入

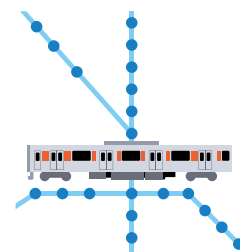
1,336億6,200万円

2023年度の輸送人員は8億3,692万人で、1日平均にすると229万人となる。運賃収入は1,336億6,200万円で、大手民鉄の中でも屈指の数を誇っている。定期を利用する方の輸送人員は全体の63%で5

億2,353万人。運賃収入は45%の598億5,600万円。定期券以外を利用する方の輸送人員は全体の37%で3億1,338万人。運賃収入は55%の738億600万円となっている。

路線数

12路線



12の路線を運営し、関東の大手民鉄の中で一番多い路線数を有している。最も歴史のある路線は1899年に開業した伊勢崎線で、長さも114.5kmと一番長い。一番短い路線は大師線の1.0kmとなっている。

数字に見る東武グループ

東武グループは、東武鉄道と連結子会社で69社、持分法適用会社3社の計72社（2023年度末現在）を連結の範囲とし、鉄道・バスなどの運輸事業、ホテル業などのレジャー事業、分譲・賃貸業などの不動産事業、百貨店業などの流通事業、建設業などの其他事業の5つのセグメントから構成される。



従業員数

18,384人

従業員数は18,384人（2023年度末現在）で運輸事業は9,129人、レジャー事業は3,614人、不動産事業は331人、流通事業は2,131人、其他事業では2,940人、一般管理239人。経営の近代化・業務の機械化により、人員は減少傾向にある。



ホテル数

18

客室数

3,383室

東京を中心に埼玉、千葉、栃木、北海道などで18のホテルを運営し、客室数は3,383室を提供している。マリオット・インターナショナルとの提携により、ザ・リッツ・カールトンなど国際的なブランドも展開している。

バス 路線距離

10,876 km



東武バスグループ、朝日自動車グループの2つの主要事業者に分かれて運行し、路線距離は10,876km。東京、埼玉、千葉、茨城、群馬、栃木と広範囲なエリアをカバーする。東北、北陸、関西などへの高速バスも運行している。

東京スカイツリータウンは、2012年5月22日にグランドオープンした。開業初年度は開業フィーバーに沸き、想定を大きく上回る4,476万人が来場。その後、コロナ禍から順調に回復し、2023年度には3,716万人が来場した。開業から12年が経過した2024年11月1日には、累計来場者数4億人を達成。国内外からの来場者でにぎわっている。

東京スカイツリータウン

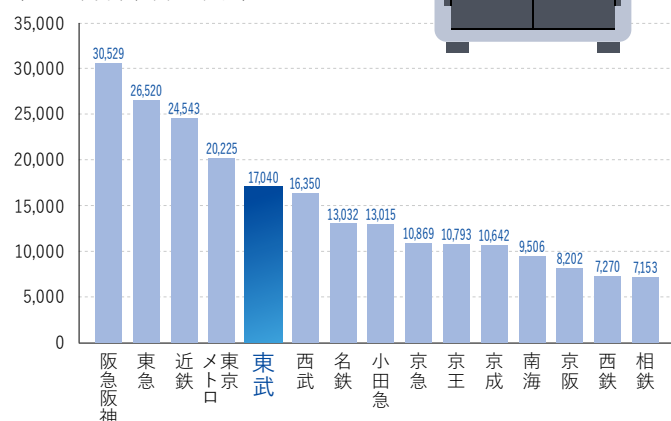
累計来場者数

4億人



総資産

1兆7,040億円

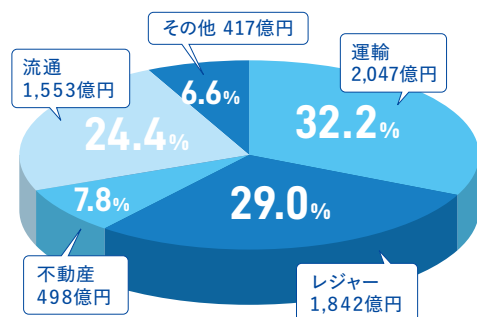
大手民鉄の総資産（連結）
（2023年度末、単位：億円）

総資産は1兆7,040億円で、純資産は5,417億円（2023年度末）である。大手民鉄の中で5番目に多くの総資産を保有している。

営業収益

6,359億円

セグメント別内訳



2023年度の東武グループでの営業収益は6,359億円で、コロナ禍前の2019年度以前の水準に戻っている。運輸・レジャー・流通の3つのセグメントで85%超となっている。

東武グループ共通ポイントサービス「TOBU POINT」のアプリダウンロード数は2024年10月末現在、76万人であり、2025年度にはアプリダウンロード数100万人を目指している。

TOBU POINT アプリダウンロード数

76万人



百貨店 営業収益

580億円



東武沿線を中心に展開する東武百貨店、東武宇都宮百貨店の営業収益合計は580億円（2023年度）。池袋店、船橋店、宇都宮店、大田原店、栃木市役所店があり、地域経済の活性化を目指していく。

主要経営指標の推移(連結)

(単位：百万円)

年 度	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
営業収益	654,622	671,346	684,378	685,512	664,716	637,364	646,361	651,592	621,694
営業利益	40,442	46,686	47,862	53,879	39,749	40,754	47,707	50,204	44,345
運輸	28,376	33,347	31,515	36,431	27,257	27,233	28,538	30,284	25,992
レジャー	-8,564	-3,542	-2,637	-214	995	1,068	1,322	1,447	1,478
不動産	14,330	11,172	11,263	12,329	6,691	6,993	10,478	9,579	8,443
流通	4,530	3,562	5,383	2,680	2,649	4,215	5,237	6,133	4,822
その他	1,771	3,427	3,606	3,516	2,507	2,778	3,506	3,840	4,355
消去	-2	-1,281	-1,268	-865	-351	-1,534	-1,375	-1,080	-748
親会社株主に 帰属する当期純利益	2,497	6,020	-71,176	10,578	13,006	12,332	26,873	41,842	17,882
有利子負債	1,282,913	1,278,463	1,128,890	1,085,448	1,047,349	1,026,172	965,605	914,425	888,359
有利子負債／ EBITDA 倍率 (倍)	12.9	14.1	12.0	11.2	11.3	11.1	9.9	9.2	8.9
ROE (%)	3.2	6.6	-75.7	10.6	11.2	10.4	20.2	24.5	9.9

年 度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
営業収益	601,884	579,382	557,147	543,407	577,223	593,649	583,268	574,334	568,887
営業利益	32,289	29,973	30,778	32,583	52,544	56,013	53,158	64,399	68,335
運輸	20,092	19,156	20,769	23,406	28,975	30,062	30,941	37,649	40,696
レジャー	1,326	1,153	1,120	-620	10,593	12,077	7,999	8,208	6,791
不動産	6,430	5,944	4,273	5,938	8,030	8,077	9,511	14,002	14,394
流通	2,372	1,030	2,292	1,277	1,948	1,484	634	395	1,897
その他	3,168	3,392	2,871	2,593	3,624	5,215	4,700	5,235	6,196
消去	-1,101	-704	-549	-12	-628	-903	-627	-1,092	-1,641
親会社株主に 帰属する当期純利益	16,090	13,986	13,104	16,019	28,648	31,521	30,653	27,277	36,137
有利子負債	803,453	800,821	850,878	847,921	805,481	776,010	830,035	823,474	799,737
有利子負債／ EBITDA 倍率 (倍)	9.0	9.6	10.1	10.1	7.6	7.1	7.9	7.0	6.6
ROE (%)	9.1	7.8	5.9	6.0	9.7	9.7	8.7	7.1	8.9

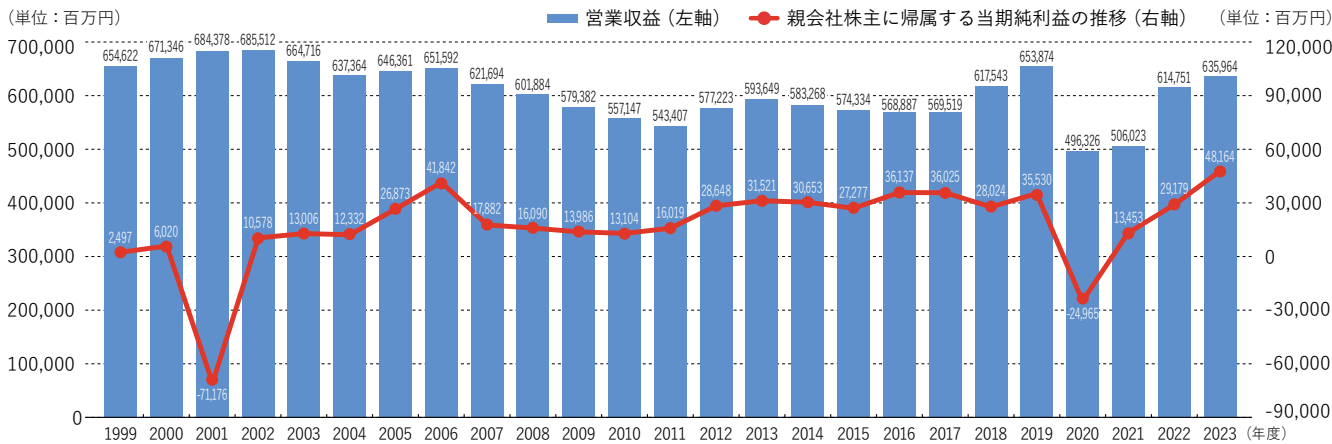
年 度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
営業収益	569,519	617,543	653,874	496,326	506,023	614,751	635,964
営業利益	66,645	67,295	62,653	-13,577	24,732	56,688	73,883
運輸	41,167	41,116	37,659	-5,224	11,759	19,381	29,870
レジャー	6,907	6,069	3,116	-18,484	-1,182	19,470	19,440
不動産	12,637	14,082	14,468	13,702	15,559	13,681	16,232
流通	2,209	2,048	3,364	-5,384	-3,976	2,602	4,434
その他	4,902	5,073	5,375	2,876	3,526	2,646	5,951
消去	-1,178	-1,096	-1,330	-1,063	-953	-1,093	-2,047
親会社株主に 帰属する当期純利益	36,025	28,024	35,530	-24,965	13,453	29,179	48,164
有利子負債	790,290	793,137	789,533	837,279	808,507	795,502	749,777
有利子負債／ EBITDA 倍率 (倍)	6.6	6.6	6.7	19.4	10.1	7.2	5.9
ROE (%)	8.3	6.2	7.7	—	3.0	6.3	9.5

※ 日本では2000年3月期から連結決算による開示制度が本格的に導入されたため、1999年度からの数値とした。

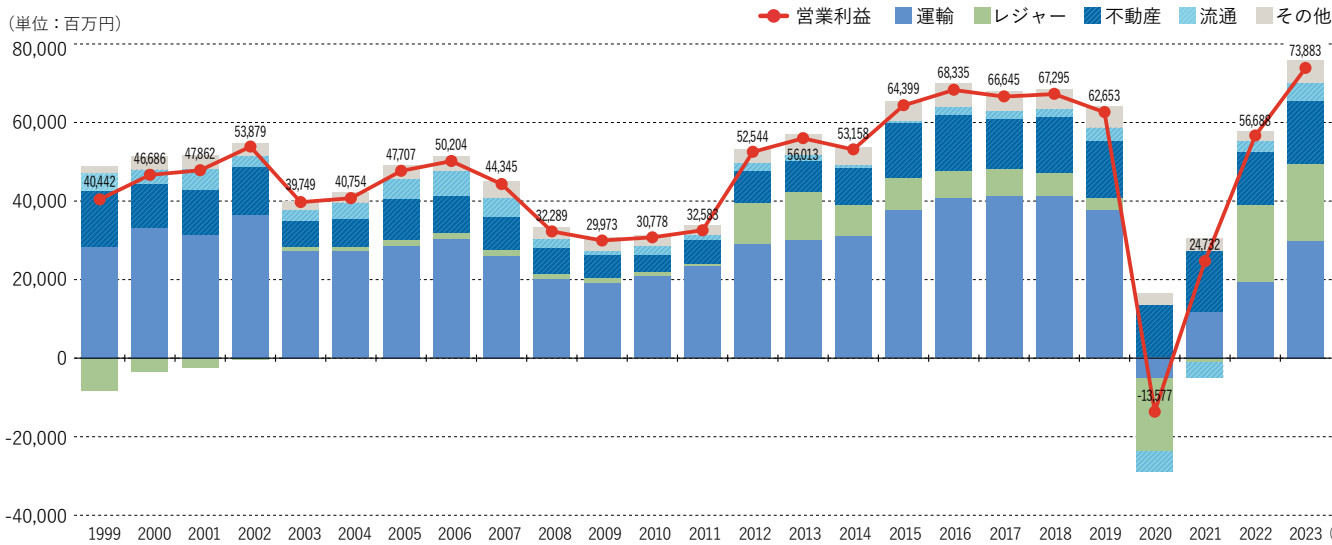
有利子負債／EBITDA 倍率：有利子負債をEBITDAで割った値。倍率が低いほど返済能力が高いとされる。EBITDAとは、利息や税金、減価償却費を計上する前の利益を表す。

ROE (自己資本利益率)：自己資本(株主資本)に対する当期純利益の割合。資本の効率性を示す経営指標で、この数値が高いほど経営効率が良いとされる。

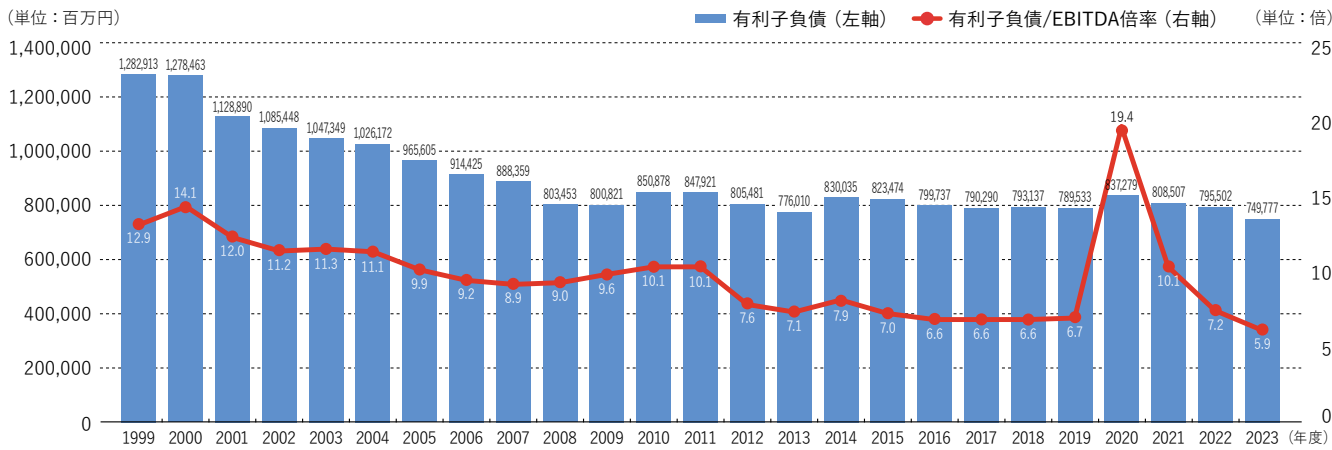
営業収益と親会社株主に帰属する当期純利益の推移



営業利益とセグメント別内訳の推移



有利子負債、有利子負債／EBITDA倍率の推移



グループ会社の取り組み

01

TRANSPORTATION
BUSINESS

運輸事業

東武バス、朝日自動車、東武運輸等で構成される。バス・タクシー業は安全を第一に、東武バスと朝日自動車の統括の下、事業の効率化やサービス向上に努める。貨物運送業は東武運輸グループによる一体運営で、貨物の輸送・配送、保管等の物流サービスを展開。事業エリアは関東を中心に静岡、名古屋、大阪をカバーする。東武デリバリーは情報資産の保管管理、精密重量物の輸送管理・設置等を担う。

TOPIC

優れた環境性能を有するバスにより、サステナブルな社会を目指す

東武バスを中心とする東武バスグループは、環境への負荷を低減し、サステナブルな社会を実現するため、様々な取り組みを行っている。

東武バスウエストは、2020年12月に燃料電池バス「SORA」の営業運行を開始した。導入したのは、水素と空気中の酸素の化学反応で発生した電力によりモーターを駆動させる車両で、CO₂などの環境負荷物質を排出しない優れた環境性能を有している。他のディーゼルバス車両に比べて走行音も静かで、騒音等の都市環境の改善も期待できる。

併せて、東武バスウエストでは2023年5月より埼玉県新座市のコミュニティバス「にいいバス」において、蓄電池に蓄えた電気で走行するEVバスの運行を開始した。さらに、2025年にはEVバスへの「停車中ワイヤレス充電（SWPT）」の実証事業を行う。充電装置上にバスを停車させ、自動的にバッテリーへ充電を行うシステムで、本格導入を視野に入れた営業路線における長期運用として、国内バス事業者で初めての取り組みとなる。



東武バスウエストの燃料電池バス「SORA」。主に鶴瀬駅東口～ららぽーと富士見で運行（提供：東武バス）



東武バスウエストが運行を受託する新座市コミュニティバス「にいいバス」のEVバス「J6」（提供：東武バス）



日光エリアで実証運行を行った廃食油由来のバイオ燃料バス（提供：東武バス）



奥日光低公害バス路線（赤沼車庫～千手ヶ浜）の実証実験で使用された自動運転EVバス（提供：栃木県）

また、東武バス日光は2023年8月～2024年3月、環境省の脱炭素先行地域に選定されている奥日光エリアをはじめとした日光エリアの路線で、廃食油由来のバイオ燃料バスの実証運行を実施した。実証運行後、栃木県内の東武グループ各施設で生じる廃食油を用いたバイオディーゼル燃料を路線バス等で使用する検討を進めている。この取り組みにより地産地消型のエネルギーサイクルを構築し、CO₂排出量を年間70 t以上削減することを見込んでいる。

さらに、東武バス日光は2023年9～10月に、日光自然博物館、東武鉄道、栃木県と共に、奥日光低公害バス路線（赤沼車庫～千手ヶ浜）において自動運転の実証実験を行った。将来的に自動運転システムを導入した路線バスの本格運行を目指す「栃木県ABCプロジェクト」の一環として実施したもので、同プロジェクトでは初となる営業バス路線での実証実験となった。この実証実験によりノウハウを蓄積し、サステナブルな社会の実現とともに、労働力不足の解消を目指す。

TOPIC

顧客のニーズに応えた物流サービスと再生可能エネルギーの「自己託送」

東武運輸は、荷主企業からの様々なニーズに応え、企業物流を支えている。同社は2023年6月、埼玉県春日部に「埼玉東物流センター支店 1号棟倉庫」を開設。お菓子の共同配送センターとして、定温設備とドッグシェルター（車両と倉庫搬入口を隙間なく密着させる装置）を設置し、倉庫内の温度を20℃前後に保つことで、保管商品の品質を維持している。

また、同施設では、2023年8月から東武グループ各社が協働し、再生可能エネルギーの「自己託送」制度を活用した取り組みも行われている。東武商事が発電事業者として、同施設の屋根に太陽光発電所を設置。発電した電力を一般送配電事業者の送電網を利用して、約4 km離れた東武動物公園（運営：東武レジャー企画）へ送電している。脱炭素社会の実現に向けた取り組みとして、東武グループにとって初となる電力の自己託送制度の活用となった。電力の自己託送は、発電事業者と需要家である送電先がグループ企業などの密接な関係である場合に活用できる制度で、離れた場所で発電した再生可能エネルギーを効率的に利用できる。これにより、東武動物公園は電力使用量のうち約19%を再生可能エネルギーに転換し、年間約319tのCO₂を削減している。



東武運輸は、貨物輸送をはじめとした幅広い物流サービスを提供し、企業物流を支えている



東武運輸の埼玉東物流センター支店 1号棟倉庫。屋根には東武商事の太陽光発電所が設置されている（提供：2点とも東武運輸）

【社名一覧】

東武インターテック(株)
東武エンジニアリング(株)
東武ステーションサービス(株)
東武トラベルサービス(株)
上毛電気鉄道(株)
上電興産(株)
朝日自動車(株)
阪東自動車(株)
日光交通(株)
関越交通(株)

川越観光自動車(株)
茨城急行自動車(株)
国際十王交通(株)
桐生朝日自動車(株)
朝日カーメンテナンス(株)
東北急行バス(株)
東武バス(株)
東武バスウエスト(株)
東武バスセントラル(株)
東武バス日光(株)

東武運輸(株)
東武物流サービス(株)
(株)群馬ロジテム
(株)栃木ロジテム
(株)東海ロジテム
(株)埼玉ロジテム
東武デリバリー(株)
野岩鉄道(株)

グループ会社の取り組み

02

LEISURE
BUSINESS

レジャー事業

東武興業、東武トップツアーズ、東武ホテルマネジメント等で構成される。ホテル業は宿泊や料理などの高品質なサービスを通し、観光からビジネスまで幅広いニーズに応えるブランドを展開。スポーツ施設は駅に近いエリアで運営し、地域に密着したサービスにより、「楽しさと健康」を提供。東武ワールドスクウェアや東武動物園などのテーマパーク、旅行、スキー、ゴルフ、ローブウェイ、遊覧船などの事業も展開している。

TOPIC

異なるコンセプトのホテルを展開し 国内外の多様なニーズに対応

東武ホテルマネジメントは、マリオット・インターナショナルと提携したホテルのほか、地域の特性を生かしたフルサービス型ホテル、宿泊主体型ホテルなどを10軒、また、レストランを1軒展開し、国内外の幅広いニーズに込えている。

日本初進出のACホテルブランドとして2020年に開業した「ACホテル・バイ・マリオット東京銀座」は、自宅のようなくつろぎとぜいたく感を実現。隣接する「コートヤード・マリオット銀座東武ホテル」は、2023年にリニューアルオープン。機能・デザインの両面でバージョンアップし、気軽に訪れたいホテルへ生まれ変わった。

東武沿線でのホテル展開にも注力し、2020年に「浅草東武ホテル」「川越東武ホテル」「和光市東武ホテル」の3つの宿泊主体型ホテルをオープン。観光やビジネス等の利用シーンにあわせ快適なホテルライフを提供している。

さらに、墨田区エリアでは「東武ホテルレバント東京」のほか、東京スカイツリー天望デッキで日本一の眺望を誇るレストラン「Sky Restaurant 634」を運営している。



ACホテル・バイ・マリオット東京銀座のプレミアム客室。ナチュラルテイストな色合いに大きな窓を配した開放感のある空間



東京スカイツリー天望デッキにあるSky Restaurant 634。地上345mからの絶景と絶品の料理を堪能できる（提供：東武ホテルマネジメント）

〔社名一覧〕

東武レジャー企画(株)
東武ワールドスクウェア(株)
東武スポーツ(株)
東武興業(株)
奥日光開発(株)
東武ゴルフサービス(株)

東武トップツアーズ(株)
東武トップ・スタッフ
ティーティーイー、INC.
トップツアーヨーロッパ LTD.
仙台国際ホテル(株)
東武ホテルマネジメント(株)

金谷ホテル(株)
レーキサイドホテルシステムズ(株)
東武タワースカイツリー(株)
日光自然博物館(株)
蔵王ローブウェイ(株)

03

REAL ESTATE
BUSINESS

不動産事業

東武不動産、東武タウンソラマチ等で構成され、地域の活性化、にぎわいづくりに貢献している。不動産仲介や駐車場・駐輪場の運営管理を行う東武不動産は、首都圏を中心に良質な不動産情報の提供、不動産の最適活用企画提案を行う。東武タウンソラマチは、東京スカイツリータウンの施設管理や東京ソラマチの商業運営を行い、継続的な収益強化を図っている。

TOPIC

東京スカイツリー周辺地域の にぎわいづくりプロジェクト始動

東武不動産は2020年、年間約4,000万人が訪れる東京スカイツリータウンへの来訪者を周辺地域にも誘導し、地域全体のにぎわいづくりを目指す「ことまちプロジェクト」をスタートした。

その一環で取り組むのが長期滞在型の宿泊施設「T-home」だ。1棟当たり1～4室程度の小規模な宿泊施設で、観光客により地域の魅力を知っていただくため2018年から押上エリアで展開している。主な特色は、「部屋の種類」と「設備」で、客室定員は4名～最大10名と大家族やグループでの宿泊が可能。リーズナブルな料金設定に加え、室内にはキッチンや家電、食器類を完備し長期滞在できるため、多くのインバウンド観光客が利用している。2024年9月には2棟構成の「T-home彩(SAI)」がオープン。施設内には日本料理店も出店する。T-homeは、現在5棟13室を運営しており、今後も押上エリアで事業を拡大する予定だ。東京スカイツリータウンを訪れる観光客が周辺を回遊し、地域全体ににぎわいをもたらすまちづくり事業を推進していく。



2024年9月にオープンしたT-home彩(SAI)。全3室で1室当たり6～8名が宿泊可能



内装は和テイストを取り入れ、家電や備品が充実している。インバウンド観光客にも好評

（提供：2点とも東武不動産）

〔社名一覧〕

日本パーキングビルサービス(株)
東武不動産(株)
東武タウンソラマチ(株)

グループ会社の取り組み

04
MERCHANDISE SALES
BUSINESS
流通事業

東武百貨店、東武宇都宮百貨店、東武ストア等で構成される。東武百貨店 池袋店・船橋店、東武宇都宮百貨店 宇都宮店はターミナル駅の特性を生かし、地域の活性化やイメージアップに貢献している。東武ストアは「地域で一番買いやすい店づくり」を目指し、店舗価値の向上を図る。東武商事はフランチャイズ店舗を駅ナカ等で展開し、幅広く利用されている。

TOPIC

産学連携企画、地元自治体との連携で
地域に貢献する「新ターミナル百貨店」へ

東武百貨店は地域に密着し、沿線のお客様に貢献する「新ターミナル百貨店」を目指し、多様な取り組みを行っている。池袋店は2023年秋、レストラン街スパイスで産学連携企画「チャレンジ・ザ・グルメ2023」を実施した。東京家政大学（東京都板橋区）で栄養学を学ぶ学生が、チーズをテーマに各店舗とメニューを共同開発。全46の新メニューを41店舗で提供し、好評を博した。

船橋店は2022年、「船橋市と株式会社東武百貨店船橋店との包括的な連携に関する協定」を締結。協定では市と同店が協働し、地域の活性化・市民サービスの向上を目的に、地産地消の推進、文化・芸術振興など9つの事項で連携。一環として、市立船橋高校美術部・書道部の作品展示などを行う「船橋東武秋の文化祭」を開催した。

また、2024年11月に開店65周年を迎えた東武宇都宮百貨店 宇都宮店は、地域の皆様に愛される百貨店であり続けることを目指し、『お客様のご要望をカタチに』をテーマに、新規店舗のオープンや物産展の開催等、多様な要望に応える取り組みを実施した。



2023年8～9月に行われた東武百貨店 池袋店のレストラン街各店の店長と、東京家政大学の学生との打ち合わせの様子（提供：東武百貨店）



東武宇都宮百貨店 宇都宮店の開店65周年ロゴ。多様化する価値観や趣味趣向をカラフルな色で表現した（提供：東武宇都宮百貨店）

〔社名一覧〕

(株)東武百貨店
(株)東武友の会
(株)東武カードビジネス
(株)東武宇都宮百貨店
東武商事(株)
東武食品サービス(株)

(株)東武ストア
(株)東武警備サポート

05
OTHER
BUSINESS
その他事業

東武建設、東武谷内田建設、東武ビルマネジメント等で構成される。東武建設と東武谷内田建設は大規模施設の建築から土木工事まで地域に根差した事業、東武電設工業は電気設備工事、東武緑地は公園等の植栽・緑化を展開。大型ビルの設備管理等を担う東武ビルマネジメント、骨材・生コンクリートを扱う東武開発、地域エネルギーを供給する東武エネルギーマネジメントなど、安心して住み続けられるまちづくりに貢献している。

TOPIC

隅田公園の指定管理業者として
エリア全体の価値向上を目指す

2023年10月、東武鉄道を代表企業とし、東武緑地、東武ビルマネジメント、プロジェクトブレインから構成される共同事業体「すみだパークマネジメントグループ」が、墨田区が公募した「墨田区立隅田公園の一部(以下「隅田公園」)における指定管理者」に選定された。墨田区内の公園における指定管理者への選定は、同グループが先駆けとなる。

2025年4月より隅田公園の管理運営を担う同グループは、運営方針として「すみだの日常に触れ、まちを知るきっかけとなる『まちあるき拠点』」を掲げる。植栽などの公園施設の維持管理だけでなく、東武グループが浅草・東京スカイツリータウンエリアで培った観光・産業等の知見とノウハウを生かし、公共空間利活用の促進及び浅草・東京スカイツリータウンエリアの情報発信を推進。エリア全体の価値向上を目指す。公園内には区内飲食店が運営するカフェも設置し、飲食利用のみならず、地域の方々の新たな活動拠点となるようなコミュニティの創造も図っていく。



隅田公園は「東京ミズマチ」に隣接。都市公園を利活用することで、エリア全体の価値向上を図る



隅田公園は浅草・東京スカイツリータウンエリアの中心に位置する

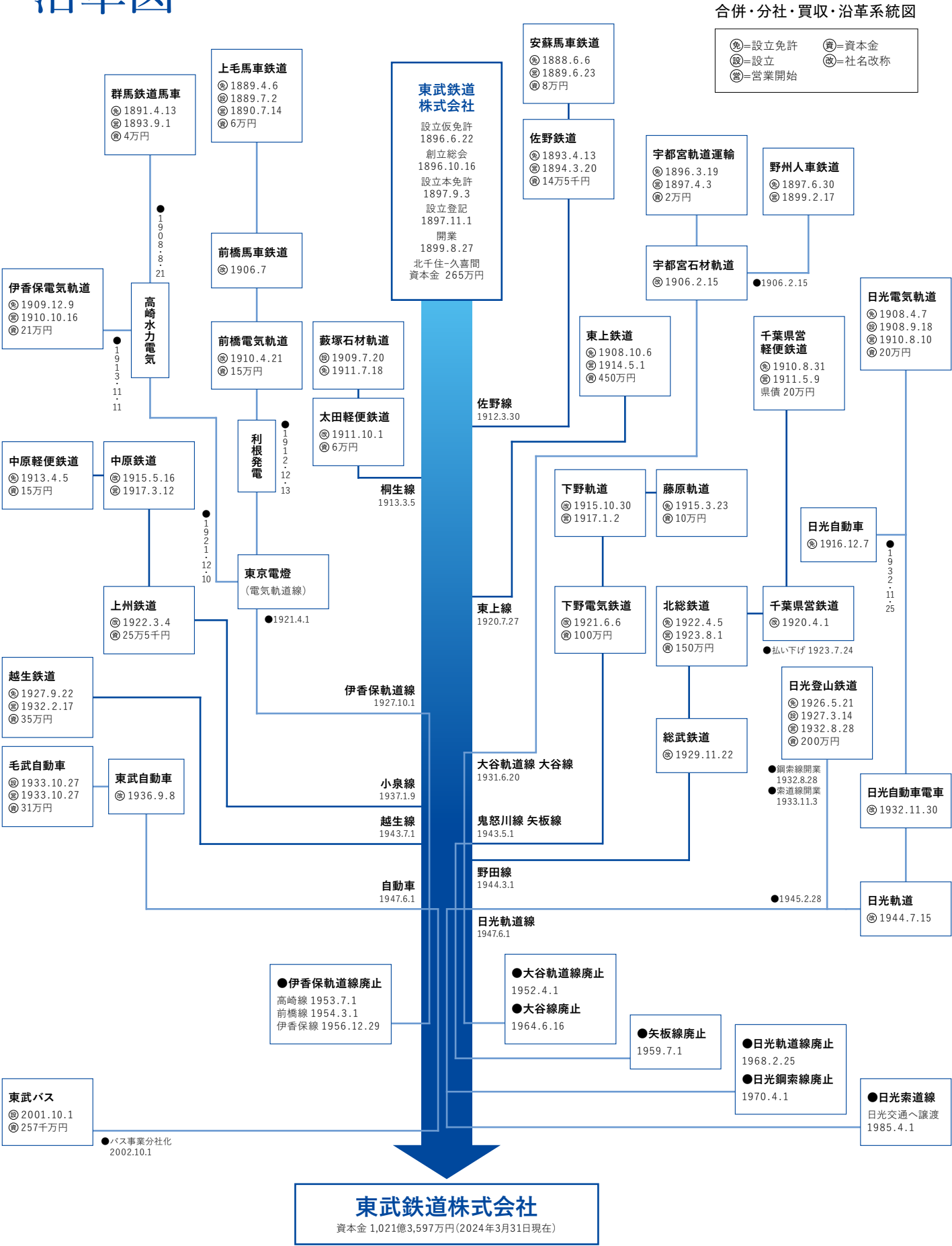
〔社名一覧〕

東武電設工業(株)
東武建設(株)
東武栃木生コン(株)
東武開発(株)
東武谷内田建設(株)
東武緑地(株)

(株)TOYO
東武シェアードサービス(株)
(株)東武保険サービス
東武ビルマネジメント(株)
西池袋熱供給(株)
錦糸町熱供給(株)

(株)東武エネルギーマネジメント
(株)シンフォニア東武
東武ビジネスソリューション(株)

沿革図



年表

1997-2024

年号	東武グループの出来事	世の中の動き
1997 (平成9年)	11.1 ●東武鉄道創立100周年	11.24 山一證券自主廃業を発表 12.1 京都会議開幕「京都議定書」を採択
1998 (平成10年)	1.16 ●東武ファイナンスマネジメント設立(2006.3.1東武シェ어드サービスに社名変更) 1.30 ●小澤征爾&新日本フィルハーモニー特別演奏会を開催(東武鉄道創立100周年記念) 3.26 ●新越谷駅に新越谷駅ビル「ヴァリエ」がオープン 3.31 ●社史ダイジェスト版「RAILWAY100」を発行 4.2 ●急行りょうもうに250型が就役 6.1 ●錦糸町東武ホテルレバントを「東京マリオットホテル錦糸町東武」に名称変更(2006.4.1「東武ホテルレバント東京」に名称変更) 6.26 ●百周年記念配当を第178期株主総会で決議 7.1 ●とーぶ鉄道モニター制度発足 7.22 ●従業員持株制度を導入 7.28 ●東武食品サービスが東武スパリゾート「野田潮の湯」をオープン 8.1 ●東武デリバリーが東武新座物流センターをオープン 10.30 ●東武鉄道百年史(正史)を発行 12.1 ●ポイントカードシステム「東武キャッシュバッククラブ」を草加ヴァリエに導入	2.7 長野冬季オリンピック開幕 3.17 政府が銀行21行に公的資金投入決定 4.5 明石海峡大橋開通 6.10 サッカーワールドカップフランス大会開幕、日本が初出場 7.4 日本初の火星探査機「のぞみ」打ち上げ 7.30 小淵恵三内閣発足 9.19 スカイマークエアラインズ35年ぶりの新規参入 10.23 金融再生法施行 12.1 特定非営利活動促進法(NPO法)施行 12.1 金融システム改革法(日本版ビッグバン)施行
1999 (平成11年)	2.1 ●東武デリバリーと神奈川東武デリバリーが合併(社名:東武デリバリー) 3.1 ●ノンステップバス順次運行開始(10両) 3.16 ●日光線特急の一部春日部駅停車を実施(特急・急行料金の細分化) ●急行りょうもうの特急化 3.31 ●東武運輸会津解散 ●銀座むらきと会津高原ホテルが合併(社名:銀座むらき)(2006.3.31解散) 6.29 ●根津嘉澄が代表取締役社長に就任 9.1 ●「東武キャッシュバッククラブ」を共通カード化 10.13 ●東武セレモニーが埼玉県宮代町に「東武レクイエム聖殿春日部」をオープン(2019.6.28東武セレモニー グループ指定解除)	2.12 日本銀行がゼロ金利政策開始 2.22 NTTドコモ iモードサービス開始 12.4 「日光の社寺」世界文化遺産登録
2000 (平成12年)	2.18 ●東武食品サービスがスーパー銭湯「湯屋処まつばら」をオープン 2.25 ●志木駅東口駅ビル「st.トスカ」がオープン 3.1 ●低公害(EGR / DPF搭載)バスを導入 4.13 ●東武運輸が東武南栃木物流センターを完成、営業開始 6.29 ●ストック・オプション制度を導入 6.30 ●土浦東武ホテル営業終了 8.31 ●万和産業が飲食事業を東武食品サービス、その他の事業を東武ランドシステムへ営業譲渡し解散	4.5 森喜朗内閣発足 7.1 金融庁発足 7.19 二千円紙幣発行 7.21 九州・沖縄サミット開幕 9.15 シドニーオリンピック開幕 11.15 交通バリアフリー法施行 12.1 BSデジタル放送開始

年表 1997-2024

● 鉄道 ● グループ会社		
年号	東武グループの出来事	世の中の動き
	10.14● 共通乗車カードシステム「パスネット」、「フェアスルーシステム」を導入 11.1● 終日禁煙駅を拡大(相老・赤城・新藤原を除き全線終日禁煙化) 11.30● 赤城山ロープウェイを谷川岳ロープウェーへ営業譲渡(2003.4.1赤城山ロープウェイ廃止) 12.25● 東武興業が鬼怒川丸山ロープウェイを鬼怒川観光開発へ譲渡	
2001 (平成13年)	1.1● 東武トレーディングと東武ランドシステムが合併(社名：東武ランドシステム)(2003.12.31カジュアルショップに営業譲渡し解散)(2004.1.1カジュアルショップが「東武ランドシステム」に社名変更)(2010.1.1東武エナジーサポートに社名変更) 3.4● 東武美術館閉館 3.28● 伊勢崎線越谷～北越谷間1.7kmの高架複々線が完成、北千住～北越谷間(18.9km)を複数線化 ● 日光線特急の停車駅を新栃木から栃木に変更 ● 日光線特急のすべてを春日部、新高徳に停車 ● インターネット・携帯電話による日光線特急・急行の予約開始 4.1● 東上線運行管理システムを使用開始 6.2● 東武ランドシステムが³出資するゆにガーデンが「ゆにガーデン」をオープン(東武緑地が³運営) 6.5● 東武カードビジネス設立 7.20● 東武興業並びに奥日光開発が³船の駅 中禅寺」をオープン 8.31● 松島観光開発解散 10.1● 事業環境の変化に対応できる体制づくりに向け、東武バス(株)を設立 11.20● メール配信サービス「とぶとぶメール」を開始(会員制総合情報サービス「102@club」の一環、2008.9サービス終了)	1.6中央省庁再編に伴い、財務省・国土交通省などが発足 1.20米国大統領にジョージ・ブッシュ氏就任 3.23実用では日本初のガイドウェイバス「名古屋ガイドウェイバス志段味線」開業 3.31大阪に「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」オープン 4.26小泉純一郎内閣発足 9.11米国 同時多発テロ事件発生 11.18JR東日本が¹ICカードSuica(スイカ)のサービス開始
2002 (平成14年)	1.1● 東武運輸が本社を埼玉県宮代町に移転 1.23● 中期経営計画「東武グループ再構築プラン」を策定 2.1● 東武運輸・東運・東武物流サービス・富士通運の4社が合併(社名：東武運輸) 3.1● 東武建設・東武電設工業・栃木生コンの3社が合併(社名：東武建設) 3.31● 東武ワールドスクウェアの営業を東武ワールドスクウェア(株)に譲渡 ● 会津アストリアホテル(経営は会津観光開発)を会津高原夢開発へ営業譲渡(2002.6.30会津高原観光開発解散) ● 会津田島リゾート開発解散 4.1● 東武動物公園の営業を東武レジャー企画(株)に譲渡 6.30● 会津高原たかつえカントリークラブ解散 7.30● 東武ケーブルメディアを東武コミュニケーションズに社名変更(2008.3.31解散) 9.6● 東武宇都宮百貨店大田原店がオープン 9.18● 東武コミュニケーションズが第一種通信事業者免許を取得 9.30● バス事業本部を廃止	1.1欧州単一通貨ユーロ流通開始 2.9ソルトレイクシティ冬季オリンピック開幕 5.28日本経済団体連合会発足 5.31サッカーワールドカップ日韓共同開催 10.2日本航空と日本エアシステムが経営統合 12.1東北新幹線 盛岡～八戸間が延伸開業
	10.1● 東武バスが東武鉄道バス事業本部の廃止に伴い新会社として営業開始	
2003 (平成15年)	1.1● 「コンプライアンス基本方針」「環境理念」「環境方針」を制定 1.29● 東武ストアが丸紅、マルエツと資本・業務提携 2.17● 「102@運行情報メール」の配信サービスを開始 2.20● 東武インターテック設立 ● 東武エンジニアリング設立 3.18● 業平橋駅と都営・京成線の押上駅との連絡通路を廃止 3.19● 伊勢崎線・日光線、営団地下鉄(現・東京メトロ) 半蔵門線、東急田園都市線(南栗橋～押上～渋谷～中央林間間)で相互直通運転を開始 ● 特急・急行料金の値下げを実施、特急・急行列車内に車掌用携帯型端末機を導入 ● 浅草駅にステーションアテンダントを配置(2003.3.18スペーシアアテンダントを廃止) ● 大師線、小泉線(西小泉・東小泉～太田間)でワンマン運転開始 3.31● 直営ゴルフ場(宮の森カントリー倶楽部、星の宮カントリー倶楽部、東武藤が丘カントリー倶楽部)の営業を東武不動産(株)に譲渡 4.1● 浦和東武ホテルが東武鉄道に事業譲渡(2008.6.30営業終了) 5.1● 東武線全駅で終日全面禁煙を実施(2007.3.18特急列車の全車両禁煙化) 6.1● 「東武鉄道コンプライアンス・マニュアル」を作成 ● 施設・設備の維持補修及び保守業務を東武エンジニアリング(株)に委託 6.5● 環境報告書(現・社会環境報告書)を発行開始 6.16● 東武運輸が東武埼玉東物流センターを完成、営業開始 8.1● 東武ステーションサービス設立 ● 69駅における駅業務、構内営業等の業務を東武ステーションサービス(株)に委託(2015.7.1全面委託) 8.25● 東武興業が中禅寺温泉ロープウェイを廃止 9.30● 貨物営業を全廃 10.1● 東武ビル管理と東武整備が合併(社名：東武ビル管理)(2006.4.1東武ビルマネジメントに社名変更) 10.16● 東武百貨店船橋店が全館リニューアルオープン 12.6● 蔵王ロープウェイが山頂線を架け替えリニューアル 12.18● 東北急行バスが東武グループ初の関西圏への高速バスとして、東京～大阪線の運行開始 12.25● トウブドラッグがマツモトキヨシと資本・業務提携(2011.7.29グループ指定解除)	3.重症急性呼吸器症候群(SARS)感染拡大 4.1日本郵政公社発足 8.10沖縄都市モノレール開業 9.1少子化社会対策基本法施行 10.1東海道新幹線品川駅開業 12.1テレビ地上デジタル放送開始 12.17在京6社新タワー推進プロジェクトが発足
	1.1● 国際ハイヤーと十王自動車が合併(社名：国際十王交通) 2.26● 東武百貨店・東武宇都宮百貨店が¹ICクレジットカード対応POSシステムを導入	3.13九州新幹線 新八代～鹿児島中央間開業 4.1東京の営団地下鉄が民営化、東京メトロ誕生

● 鉄道

● グループ会社

年号

東武グループの出来事

世の中の動き

2005

(平成17年)

4.1

●「グリーン購入ガイドライン」「情報セキュリティ基本方針」「危機管理規程」を制定

●南栗橋車両基地に工場棟が完成、保守業務を東武インターテック(株)に全面委託

5.1

●団体割引の最少適用人員の引下げと特急料金の団体割引適用を開始

7.31

●東武フォトサービス解散

8.1

●新桐生駅で当社初の「パーク・アンド・ライドサービス」を開始

9.2

●東武カードビジネスが「東武グループポイントサービス」を開始

9.29

●東武運輸栃木と東武運輸新潟の保有株式85%をPZ運輸に売却

10.19

●亀戸線でワンマン運転開始

11.16

●東武スポーツが新ブランド「東武スポーツクラブ プレオン北越谷」をオープン

12.16

●東上ケーブルテレビ グループ指定解除

12.31

●松島湾観光汽船を松島ベイクルーズに営業譲渡、解散(2010.10.22松島ベイクルーズ グループ指定解除)

3.1

●「AIZUマウントエクスプレス」が鬼怒川温泉～会津若松(一部、喜多方)間で直通運転を開始(2012.3.17東武日光まで直通を開始)

3.15

●竹ノ塚踏切事故発生

3.16

●東上線に50000系通勤車が就役

3.17

●東上線小川町～寄居間でワンマン運転開始

5.9

●伊勢崎線・日光線・東上線に女性専用車両を導入(野田線は2005.6.20)

8.1

●安全推進部を新設

9.16

●南栗橋車両管理区(現・南栗橋車両管区)でISO14001の認証取得(東武鉄道(株)・東武インターテック(株))

9.29

●伊勢崎線第37号踏切を自動化(東武線内の手動式踏切が全廃)

3.14

●IT事業部でISMSの認証取得

3.18

●JR新宿～東武日光・鬼怒川温泉間で、JR東日本と特急列車の相互直通運転開始

●東京メトロ半蔵門線、東急田園都市線との相互直通運転区間を久喜まで延長

●伊勢崎線・日光線等の列車種別の変更により有料急行を廃止(特急に格上げ)

●伊勢崎線太田～伊勢崎間、佐野線、桐生線でワンマン運転開始

3.31

●新タワー(東京スカイツリー)の建設地が墨田・台東エリア(押上・業平橋地区)に決定

4.1

●野鳥の森と〜ぶを「館林野鳥の森フラワーガーデン」に改称しオープン(2012.3.31「ザ・トレジャーガーデン館林」に改称しオープン)(2021.6.14営業終了)

2006

(平成18年)

8.13

アテネオリンピック開幕

10.23

新潟県中越地震発生

11.1

福沢諭吉、樋口一葉、野口英世がデザインされた新紙幣発行

2.16

京都議定書発効

3.6

実用では日本初の磁気浮上式リニアモーターカーの愛知高速交通東部丘陵線(愛称「リニモ」)開業

3.25

愛知万博「愛・地球博」開幕

4.1

個人情報保護法全面施行

4.25

JR福知山線脱線事故発生

2.10

トリノ冬季オリンピック開幕

6.2

高齢社会白書で65歳以上の高齢者の割合初めて20%超

9.26

第1次安倍晋三内閣発足

10.1

運輸安全一括法施行

10.1

阪急HDと阪神電鉄が経営統合

12.20

バリアフリー法施行

2007

(平成19年)

4.24

●東武テレガイドサービス営業終了

●「東武鉄道お客さまセンター」を開設

5.1

●新東京タワー(株)設立(2008.6.10東武タワースカイツリー(株)に社名変更)

6.22

●東武ステーションサービスが第2種旅行業免許を取得

8.1

●8月1日を「安全の日」に定める

9.20

●東武エネルギーマネジメント設立

9.28

●小泉線(館林～西小泉間)でワンマン運転開始

10.1

●安全管理規程を制定

11.1

●主要6駅にAED(自動体外式除細動器)を設置(2008.3.28委託駅・無人駅を除く172駅に設置完了)(2020.10みなみ寄居(ホンダ寄居前)駅に設置、計173駅)

12.16

●東武スポーツが新ブランド「東武スポーツクラブ リ・プレオン新越谷」をオープン(2021.5.31営業終了)

1.30

●シンフォニア東武設立(2007.11.26特例子会社の認定を取得)

1.31

●松島のホテル壯観解散

3.18

●交通系ICカード「PASMO」のサービスを開始、「電子マネーサービス」を9駅189カ所の店舗・自動販売機でスタート

4.1

●銀座東武ホテルを「コートヤード・マリオット銀座東武ホテル」に名称変更

4.3

●ISO27001認証を取得

5.31

●気象庁が配信する緊急地震速報を用いた「早期地震警報システム」を導入

6.25

●安全報告書を発行開始

6.28

●当社株式の大量買付行為に関する対応策(買収防衛策)を導入

8.1

●遺失物検索システムを運用開始

8.3

●東武フードシステム設立

9.20

●川越駅ショッピングエリア「エキア川越」がオープン

10.1

●鉄道事業部門に管区制を導入

●鉄道乗務員養成所に訓練機能を向上した運転シミュレータを導入

10.25

●東武ビジネスソリューション設立

10.31

●栃木～東武宇都宮間(日光線・宇都宮線)でワンマン運転開始

2.14

●ホームページ上での遅延証明書の発行サービスを開始

3.15

●東武カードビジネスが「東武カードPASMO」を発行開始

4.1

●日光交通と東武ダイヤルバスが合併(社名：日光交通)

5.14

●東武配送サービス解散

6.10

●新タワーの名称を全国投票により「東京スカイツリー」に決定

6.14

●東上線、東京メトロ副都心線(森林公園～和光市～渋谷間)で相互直通運転を開始

●座席定員制列車「TJライナー」を運行開始

●越生線でワンマン運転開始

7.14

●業平橋押上地区開発計画(新タワー計画)が着工

2008

(平成20年)

4.1

●「グリーン購入ガイドライン」「情報セキュリティ基本方針」「危機管理規程」を制定

●南栗橋車両基地に工場棟が完成、保守業務を東武インターテック(株)に全面委託

5.1

●団体割引の最少適用人員の引下げと特急料金の団体割引適用を開始

7.31

●東武フォトサービス解散

8.1

●新桐生駅で当社初の「パーク・アンド・ライドサービス」を開始

9.2

●東武カードビジネスが「東武グループポイントサービス」を開始

9.29

●東武運輸栃木と東武運輸新潟の保有株式85%をPZ運輸に売却

10.19

●亀戸線でワンマン運転開始

11.16

●東武スポーツが新ブランド「東武スポーツクラブ プレオン北越谷」をオープン

12.16

●東上ケーブルテレビ グループ指定解除

12.31

●松島湾観光汽船を松島ベイクルーズに営業譲渡、解散(2010.10.22松島ベイクルーズ グループ指定解除)

3.1

●「AIZUマウントエクスプレス」が鬼怒川温泉～会津若松(一部、喜多方)間で直通運転を開始(2012.3.17東武日光まで直通を開始)

3.15

●竹ノ塚踏切事故発生

3.16

●東上線に50000系通勤車が就役

3.17

●東上線小川町～寄居間でワンマン運転開始

5.9

●伊勢崎線・日光線・東上線に女性専用車両を導入(野田線は2005.6.20)

8.1

●安全推進部を新設

9.16

●南栗橋車両管理区(現・南栗橋車両管区)でISO14001の認証取得(東武鉄道(株)・東武インターテック(株))

9.29

●伊勢崎線第37号踏切を自動化(東武線内の手動式踏切が全廃)

3.14

●IT事業部でISMSの認証取得

3.18

●JR新宿～東武日光・鬼怒川温泉間で、JR東日本と特急列車の相互直通運転開始

●東京メトロ半蔵門線、東急田園都市線との相互直通運転区間を久喜まで延長

●伊勢崎線・日光線等の列車種別の変更により有料急行を廃止(特急に格上げ)

●伊勢崎線太田～伊勢崎間、佐野線、桐生線でワンマン運転開始

3.31

●新タワー(東京スカイツリー)の建設地が墨田・台東エリア(押上・業平橋地区)に決定

4.1

●野鳥の森と〜ぶを「館林野鳥の森フラワーガーデン」に改称しオープン(2012.3.31「ザ・トレジャーガーデン館林」に改称しオープン)(2021.6.14営業終了)

年表 1997-2024

● 鉄道 ● グループ会社		
年号	東武グループの出来事	世の中の動き
2009 (平成21年)	9.30●東武プライダル解散 10.25●第1回“東武鉄道杯”東上線沿線少年野球大会を開催(同サッカー大会は2009.2.21より開催) 11.11●携帯電話を利用した「特急券チケットレスサービス」と「東武携帯ネット会員」の会員募集を開始	9.24麻生太郎内閣発足 10.1観光庁発足
	2.17●東武エネルギーマネジメントが「東京スカイツリー地区」における熱供給事業化にあたり、経済産業大臣より熱供給事業法に基づく事業許可を取得 2.26●志木駅ショッピングエリア「エキア志木」がオープン 3.1●東武ホテルマネジメントが「宇都宮東武ホテル」を全館リニューアルオープン 3.22●お子さま向けホームページ「TOBU BomBo Kids(と〜ぶボンボキッズ)」を開設(2019.3.28TOBU Kids(と〜ぶキッズ)に名称変更) 4.1●東武スポーツが「プレオン」ブランドで東上線沿線初となる「東武スポーツクラブ プレオンふじみ野」をオープン 4.24●柏駅構内ショッピングエリアがオープン 5.29●城山カントリー倶楽部をシーアール・エスに経営移管 7.22●東武博物館がリニューアルオープン 9.15●TJライナーチケットレスサービス開始、二次元コードを利用した着席整理券確認システムを導入 ●大規模分譲マンション「リライズガーデン西新井」が竣工 9.18●新本社ビルが竣工(2009.11.2全組織の業務開始) 9.29●ふじみ野駅複合商業ビル「ふじみ野ナーレ」がオープン 10.16●東武プロパティーズ設立(2018.2.1東武不動産に社名変更) ●東武タワースカイツリーが「東京スカイツリー」の完成時高さを634mに変更しライティングデザインを発表 11.20●野田線で運行管理システムを使用開始	1.20米国大統領にバラク・オバマ氏就任 5.21裁判員制度スタート 9.1消費者庁発足 9.16鳩山由紀夫内閣発足
2010 (平成22年)	1.1●東武不動産が東武ランドシステムに社名変更 2.1●蔵王リゾートと林友観光が蔵王ロープウェイと合併(社名：蔵王ロープウェイ) 3.15●越生線全線においてホーム検知装置の使用開始 ●東北急行バスが東京〜岡山・倉敷「ままかりライナー」の運行開始 3.24●東武線全線の全踏切に手動「押ボタン」を設置完了 3.29●建設中の「東京スカイツリー」が高さ338mとなり東京タワーの高さを超えて日本で一番高い建造物になる 4.24●東武ワールドスクウェアが1/25スケールの「東京スカイツリー」と周辺複合施設を建造し展示 4.28●朝霞駅ショッピングエリア「エキア朝霞」がオープン 9.29●東武タウンソラマチ設立(2011.1.1グループ指定)	1.1日本年金機構発足 2.12バンクーバー冬季オリンピック開幕 6.8菅直人内閣発足 6.13小惑星探査機「はやぶさ」地球に帰還 7.17京成電鉄の新線「成田スカイアクセス」開業 10.21羽田空港 新国際線ターミナルビルオープン 12.4東北新幹線 八戸―新青森間が開通し全線開業
	1.1●ホリデイ・イン東武成田を「成田東武ホテルエアポート」に名称変更	3.11東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)、福島第一原発事故が発生
2012 (平成24年)	3.1●「東京スカイツリー」が高さ604mとなり自立式電波塔として世界一の高さになる 3.12●東上線で「二区間定期券」の発売を開始 3.18●「東京スカイツリー」が最高高さ634mに到達 6.1●サンライフ・キャリアサービスが東武キャリアサービスに社名変更 9.15●東武カードビジネスが「東京スカイツリー東武カードPASMO」を発行開始 11.17●東京スカイツリーが「世界一の高さのタワー」としてギネス世界記録™に認定	3.12九州新幹線 博多―新八代間が開通し全線開業 7.24アナログ放送終了、地上デジタル放送に完全移行 9.2野田佳彦内閣発足
	2.29●東京スカイツリータウンが竣工 3.8●東武エネルギーマネジメント及び東武鉄道が大規模災害時の大容量水蓄槽・保有水提供に関する協定を墨田区と締結 3.17●業平橋駅をとうきょうスカイツリー駅に改称(同4.20リニューアルオープン) ●とうきょうスカイツリー駅に特急スペーシアほか特急列車が停車 ●伊勢崎線 浅草・押上〜東武動物公園間に路線愛称名「東武スカイツリーライン」を導入 ●東武線全線を5つのエリアにわけ、駅ナンバリングを導入 4.20●とうきょうスカイツリー駅、浅草駅、池袋駅にステーションコンシェルジュを配置 5.1●富士通運が群馬ロジテムを合併(社名：群馬ロジテム) ●嶋久運輸が千葉ロジテムに社名変更(2015.7.1群馬ロジテムが千葉ロジテムを合併(社名：群馬ロジテム)) 5.18●浅草駅ビルリニューアル完成(竣工当時の外観を再現) 5.22●東京スカイツリータウンがグランドオープン ●東武バスセントラルがスカイツリーシャトル® 4路線運行開始(東京駅・羽田空港・東京ディズニーリゾート® を結ぶ3路線の新設、上野・浅草線は本運行開始) ●東武百貨店東京ソラマチ店がオープン(2016.1.31営業終了) ●東武ホテルマネジメントが東京スカイツリー内に「スカイレストラン634」をオープン 7.24●回生電力を有効活用した「電力貯蔵装置」を導入(上福岡き電区分所) 9.6●東武百貨店池袋店が低層階等をリニューアルオープン 10.27●展望車両634型スカイツリートレインが就役 11.21●浅草駅ビルの商業施設「EKIMISE(エキミセ)」がグランドオープン 12.1●東武百貨店池袋店が「TOBUビューティーテラス」をオープン 12.20●東武バスウエストがスカイツリーシャトル和光・志木線の運行開始	2.10復興庁発足 7.27ロンドンオリンピック開幕 10.1東京駅「丸の内駅舎」リニューアルオープン 12.26第2次安倍晋三内閣発足

年表 1997-2024

● 鉄道 ● グループ会社		
年号	東武グループの出来事	世の中の動き
2013 (平成25年)	3.16●とうきょうスカイツリー駅に停車する特急列車を大幅に拡大 ●東京メトロ日比谷線との直通区間を南栗橋まで延伸 ●伊勢崎線 館林～太田間の一部列車でワンマン運転開始(2020.6.6伊勢崎線 館林以北 特急以外ワンマン運転開始) ●東上線、東急東横線、横浜高速鉄道みなとみらい線(森林公園～和光市～渋谷～横浜～元町・中華街間)と相互直通運転を開始 4.24●松原団地(現・獨協大学前(草加松原))駅ショッピングエリア「エキア松原」がオープン ●東武ワールドスクウェアが開園20周年を記念して「故宮(中国)」をリニューアルオープン ●東武宇都宮百貨店宇都宮店がレストラン街「スパイス」をリニューアルオープン 6.1●東武運輸が三郷物流支店を完成、営業開始 6.15●野田線に60000系通勤車が就役 7.26●東武エネルギーマネジメントが葛生駅南側土地において初の大規模太陽光発電所(メガソーラー)で発電を開始 8.30●トップツアー、ティラミスホールディングス、トップ・スタッフ、トップツアー ヨーロッパ LTD.、ティーティーエー、INC.をグループ指定 10.21●分譲マンション「ソライエ草加松原」が竣工 12.3●東武百貨店船橋店がレストラン街「スパイス」をリニューアルオープン	3.23全国11団体の鉄道系ICカード乗車券主要10種により交通系ICカード全国相互利用サービスを開始 6.22「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」世界文化遺産登録 9.7東京オリンピック・パラリンピック開催決定 10.15九州旅客鉄道クルーズトレイン型寝台列車「ななつ星 in 九州」運行開始 12.4「和食：日本人の伝統的な食文化」無形文化遺産登録
2014 (平成26年)	3.16●東武宇都宮百貨店栃木店が、栃木市役所新庁舎1階にオープン(2015. 3.19「栃木市役所店」に店名変更) 3.22●船橋駅で当社初のホームドアを使用開始 4.1●野田線に路線愛称名「東武アーバンパークライン」を導入 5.1●東上線開業100周年、2種類のリバイバルカラー車両が連結した特別編成列車を運転 6.14●「ソライエ清水公園アーバンパークタウン」で街びらきフェスタを開催 9.17●東京スカイツリータウン累計来場者数1億人を突破 10.17●東北急行バスが「きまっし号」東京～金沢線の運行開始 10.31●ニッポンレンタカー東武の全株式をニッポンレンタカーサービスへ売却 12.11●「新越谷ヴァリエ」食品フロアを中心とした1階が全面リニューアルオープン 12.22●運河駅構内に回生電力貯蔵装置を導入(2017.2大宮公園駅構内に移設)	2.7ソチ冬季オリンピック開幕 3.7あべのハルカス開業 4.1消費税5%から8%に増税 4.6岩手の三陸鉄道が全線で運転再開 6.25「富岡製糸場と絹産業遺産群」世界文化遺産登録 11.27「和紙：日本の手漉和紙技術」無形文化遺産登録
2015 (平成27年)	1.31●東上線川越市～小川町間で、運転保安システムATCの使用開始 3.1●東武運輸が厚木物流支店を完成、営業開始 4.1●トップツアーが東武トラベルと合併(社名:東武トップツアーズ) ●蔵王ロープウェイが山形県内初となる「恋人の聖地サテライト」に選定	3.14北陸新幹線 長野～金沢間開業 3.31プリベイド式共通乗車カード「パスネット」の使用終了 9.9関東東北豪雨発生 10.1スポーツ庁発足 10.5マイナンバー法施行
2016 (平成28年)	1.3●日光レークサイドホテル営業終了 2.26●東武百貨店池袋店がレストラン街「スパイス」をリニューアルオープン 3.25●成増駅ショッピングエリア「エキア成増」がオープン 3.26●野田線大宮～春日部間急行運転開始(2020.3.14全線で急行運転開始) ●副都心線直通列車の東上線内急行列車Fライナー運行開始 3.28●上りTJライナーの運転開始 4.1●総合教育訓練センターを南栗橋に開設 ●東武ホテルマネジメントが「高輪東武ホテル」の名称を「品川東武ホテル」に変更(2016.8.1リニューアルオープン) ●東武建設栃木生コン事業本部の営業を東武栃木生コンへ新設分割 ●東武ビルマネジメントが池袋東武ホープセンターを東武百貨店へ事業譲渡 5.24●池袋駅西口地下に「イケチカ ダイニング」がグランドオープン 6.1●東武スポーツが「TOBUフィットネスパーク ネオス鎌ヶ谷」をオープン(2022.1.31営業終了) 6.17●台鉄自強号「普悠瑪」デザインのりょうもうが運行開始(2018.11.19終了) 9.1●東武宇都宮百貨店宇都宮店がリニューアルオープン 9.30●金谷ホテルをグループ指定 10.3●台湾において金色の「日光詣スペーシア」デザインの台鉄自強号が運転開始 10.7●台湾台北市にインバウンド戦略部 台北支社を開設 12.1●東野交通をみちのりホールディングスへ譲渡	3.26北海道新幹線 新青森～新函館北斗間開業 4.1女性活躍推進法全面施行 4.14熊本地震発生 6.19改正公職選挙法が施行され、選挙権が18歳以上に リオデジャネイロオリンピック開幕 8.11「山の日」が新たな祝日に 11.30「山・鈴・屋台行事」無形文化遺産登録
2017 (平成29年)	2.28●ガンブス・インターナショナル解散 3.1●東武ストアが東武フーズを合併(社名：東武ストア) 3.29●インバウンド向けウェブサイト「TOBU JAPAN TRIP」を開設	1.20米国大統領にドナルド・トランプ氏就任 2.24プレミアムフライデー開始 6.9天皇退位特例法成立

年表

1997-2024

年号	東武グループの出来事	世の中の動き
	4.1 ●松原団地駅を「獨協大学前〈草加松原〉」に改称 ●曳舟駅直結ビルに「東京曳舟病院」が開院 ●東武建設が東武イマリンを合併(社名:東武建設) 4.7 ●曳舟駅ショッピングエリア「エキア曳舟」(第1期エリア)がオープン(2019.5グランドオープン) 4.21 ●500系「リパティ」が就役(特急リパティ会津として野岩鉄道・会津鉄道へ乗り入れ) ●近距離区間の特急列車「スカイツリーライナー」、「アーバンパークライナー」を新設 ●特急りょうもうが全列車久喜駅に停車 ●浅草発着の快速・区間快速列車の運行を廃止し、南栗橋～東武日光(一部新藤原)間に急行・区間急行を新設 ●全特急列車のとうきょうスカイツリー駅停車 6.30 ●志木駅東口駅ビル「st.トスカ」を「エキア志木」に統合しグランドオープン 7.1 ●東武スポーツが「TOBUフィットネスクラブ ネオス春日部いちのわり」をオープン ●東武デリバリーの警備輸送事業をデリバリーサービスに承継(2017.7.3全株式を総合警備保障に譲渡) 7.7 ●日比谷線直通用70000系通勤車が就役 7.22 ●東武ワールドスクウェア駅を開業 8.10 ●鬼怒川線下今市～鬼怒川温泉間においてSL大樹運転開始 9.23 ●東武レジャー企画が東武動物公園に雨天対応型大型イベントステージ「東武動物公園HOLA!(オーラ)」をオープン 10.1 ●東武デリバリーが新倉庫「浦和アーカイブセンター」での本社営業を開始 10.8 ●東京スカイツリータウン累計来場者数2億人を突破 12.14 ●北千住駅ショッピングエリア「エキア北千住」がグランドオープン	
2018 (平成30年)	1.25 ●東武ブックスの全株式を日本出版販売に譲渡 3.29 ●スマートフォンアプリ「東武線アプリ」の提供開始(2023.3.18 TOBU POINTアプリに統合) 4.21 ●東武ワールドスクウェアが「富貴角燈台」をオープン 6.13 ●特急券インターネット購入・予約サービスの提供開始 7.2 ●東武スポーツが「TOBUフィットネスクラブ ネオス東鷲宮」をオープン(2024.7.31営業終了) ●東武運輸が「東武太田物流センター」を開設 9.3 ●20400型通勤車が就役 10.16 ●関越交通が「客貨混載」を開始 ※ヤマト運輸と連携 10.25 ●東武ストアを完全子会社化(同.10.22東武ストア上場廃止) 10.31 ●東武カルチャ解放 11.1 ●東武百貨店池袋店の新食品館「eatobu」が完成	2.9 ビョンチャン冬季オリンピック開幕 4.1 大阪市営交通が民営化、Osaka Metro誕生 9.6 北海道胆振東部地震発生
2019 (平成31年) (令和1年)	1.1 ●東武シェアードサービスが東武土地建物を合併(社名:東武シェアードサービス)	5.1 皇太子徳仁親王が天皇に即位、「令和」に改元 6.28 G20大阪サミット開催

年号		東武グループの出来事	世の中の動き
2020 (令和2年)	3.16	●東上線に「川越特急」を新設 ●TJライナー座席指定化	9.20 ラグビーワールドカップ日本大会開幕
	3.31	●ティー・アンド・シー解散	10.1 消費税8%から10%に増税
2021 (令和3年)	4.1	●レーキサイドホテルシステムズ設立	
	5.31	●東武ストアが「TOBU store Fresh & Quick 曳舟店」をオープン	
2022 (令和4年)	7.20	●東武ワールドスクウェアが「ワット・アルン」をオープン	
	9.1	●子育てサポート付き社宅「kanowa(カノワ) 東武動物公園」を開設	
2023 (令和5年)	11.29	●ときわ台駅北口に「エキアときわ台」がグランドオープン	
	3.17	●二社一寺の西参道において「西参道茶屋」がオープン	1.15 新型コロナウイルスの感染者を日本で初めて確認、4.16全国を対象に緊急事態宣言が発出
2024 (令和6年)	3.26	●和光市駅直結の複合商業施設「エキア プレミア和光」がグランドオープン	3.11 新型コロナウイルスの世界的流行についてWHOがパンデミックを宣言
	3.31	●川越東武ホテル営業終了(2020.6.29川越駅西口に移転)	3.14 J R山手線と京浜東北線の新駅「高輪ゲートウェイ駅」開業
2025 (令和7年)	4.26	●札幌東武ホテルが「フェアフィールド・バイ・マリオット札幌」としてリブランドオープン	3.24 東京オリンピック・パラリンピック開催延期決定
	6.5	●特急しもつけを廃止	7.1 プラスチック製レジ袋が原則有料化
2026 (令和8年)	6.6	●東武線・日比谷線相互直通の座席指定制列車「THライナー」を運行開始	9.16 菅義偉内閣発足
	6.11	●「和光市東武ホテル」がオープン	
2027 (令和9年)	6.18	●浅草～東京スカイツリータウン間に「東京ミズマチ」がオープン ●東京スカイツリー・浅草連絡歩道橋「すみだリバーウォーク」が開通	
	7.9	●「ACホテル・バイ・マリオット東京銀座」がオープン	
2028 (令和10年)	7.15	●「ザ・リッツ・カールトン日光」がオープン	
	7.22	●「浅草東武ホテル」がオープン	
2029 (令和11年)	10.3	●SL大樹「ふたら」運転開始(2021.10.16定期運行開始)	
	10.31	●みなみ寄居(ホンダ寄居前)駅を開業	
2030 (令和12年)	11.1	●東武グループ共通ポイント「TOBU POINT」サービス開始	
	3.16	●東武食品サービスが運営するJR王子駅前「北とびあ」内の王子東武サロン営業終了	1.20 米国大統領にジョー・バイデン氏就任
2031 (令和13年)	3.31	●東武ランドシステムが「ユニニの湯」を東武緑地へ事業譲渡	4.22 温室効果ガスの削減目標、46%に引き上げ発表
	4.24	●東武ワールドスクウェアが「首里城」をオープン	7.23 東京オリンピック・パラリンピックを無観客で開催
2032 (令和14年)	6.5	●特急スペーシア デビュー当時のリバイバルカラー車両の運行開始	9.1 デジタル庁発足
	7.1	●賃貸マンション・サービス付き高齢者向け住宅・クリニック等一体の複合施設「岩槻駅前ビル」が開業	10.4 岸田文雄内閣発足
2033 (令和15年)	8.2	●社会貢献・地域活性化を目的とした特定の企業・団体向け有料手回り品料金制度を導入(同制度を活用したフードロス削減の取り組みTABETEレスキュー運用を開始)	11.30 政府が全世界からの外国人の新規入国を停止
	8.7	●1800系カラーリング200型「りょうもう」運転開始	
2034 (令和16年)	9.1	●東武鉄道公式ファンクラブを開設	
	9.16	●東武動物公園駅西口の商業施設がオープン	
2035 (令和17年)	9.30	●普通回数券、時差回数券、土・休日割引回数券の発売終了	

年表	1997-2024
----	-----------

●鉄道●グループ会社

年号	東武グループの出来事	世の中の動き
	10.1●東武バスセントラルが東武バスイーストを合併(社名：東武バスセントラル) ●TOBU POINTの新サービス「トブポマイル」のサービス開始 10.26●東京スカイツリータウン累計来場者数3億人を突破 10.28●国内初の環境配慮型・観光MaaS「NIKKO MaaS」のサービス開始 11.4●SL大樹の客車として12系「展望車」を2両(ぶどう色・青色)導入 11.11●N100系(スペーシア X)の導入を発表 ●スタートアップ企業との協業・共創プログラム「TOBU Open Innovation Program」の募集開始 12.4●1720系デラックスロマンスカーをイメージした100系「デラックスロマンスカーカラー」スペーシアの運行開始	
2022 (令和4年)	2.28●谷川岳ロープウエーグループ指定解除 3.1●東武食品サービスがビジネスホテル野田と野田潮の湯(現・のだ温泉ほのか)を売却 3.9●「健康経営優良法人2022(大規模法人部門)」に認定 3.12●日光線・鬼怒川線で特急・SL以外ワンマン運転開始 3.20●東武スカイツリーライン竹ノ塚駅付近(西新井～谷塚間)上下緩行線高架区間の使用開始 3.31●東武保険サービスが東栄産業の事業を譲受 ●コム・イースト解散 4.1●日光・鬼怒川エリアで実質再生可能エネルギー100%の電車運行をスタート ●東武食品サービスが東武フードシステムに一部事業を分割 ●東武エナジーサポートが東武商事・東武ランドシステム・東武食品サービスを合併(社名：東武商事) ●東武フードシステムが東武食品サービスに社名変更 ●東武ビルマネジメントが東武セキュリティを合併(社名：東武ビルマネジメント) ●日本パーキングビルサービスが総合パーキングサービス・宇都宮パーキングサービスを合併(社名：日本パーキングビルサービス) 4.4●東京証券取引所の市場区分の見直しにより市場第一部からプライム市場へ移行 4.28●小児通学定期券のポイントバックによる実質無料化を開始 ●東武デリバリーが宅配型保管サービス「My storage」を開始 4.30●東栄産業解散 5.26●「BRIDGE LIFE Platform 南栗橋」街びらき 6.2●グリーンプロジェクトの資金調達のため東武鉄道初の「グリーンボンド」を発行 7.18●大手民鉄初、蒸気機関車の復元が完了し営業運転を開始。SL3両体制となる 11.1●東武鉄道創立125周年 11.18●新柏駅高架下に「エキア新柏」がグランドオープン	2.4北京冬季オリンピック開幕 2.24ロシアによるウクライナ侵攻開始 4.1改正民法施行、成年年齢18歳に 10.14鉄道開業150周年 9.23西九州新幹線 武雄温泉～長崎間開業

2023
(令和5年)

11.27●東武スカイツリーラインとうきょうスカイツリー駅付近(とうきょうスカイツリー～曳舟間)上り線高架区間の使用開始

12.31●東武ホテル北海道解散

2024
(令和6年)

3.18●東上線、東急新横浜線、相鉄線(小川町～和光市～渋谷～日吉～新横浜～海老名、湘南台間)と直通運転を開始

●南栗橋駅への特急停車開始(朝の上り3本、夕夜間の下り6本)

●東武レジャー企画が東武動物公園の水上木製コースター「レジーナ」を「レジーナⅡ(ドゥーエ)」としてリニューアルオープン

3.27●東武鉄道が東武グループのショッピングサイト「TOBU MALL」をオープン

3.30●獨協大学前エリアに商業施設「TOBU icourt / トーブイコート」がオープン

3.31●ティラミスホールディングス解散

6.23●根津嘉澄が代表取締役会長、都筑 豊が代表取締役社長に就任

7.15●N100系「スペーシア X」が就役

●金谷ホテルが日光金谷ホテル別館を「別館ROYAL HOUSE」としてリニューアルオープン

8.29●日立製作所と生体認証を活用したデジタルアイデンティティの共通プラットフォーム立ち上げに合意

9.21●谷塚高架下に「エキア谷塚」がオープン

10.26●草加駅直結の商業施設「草加ヴァリエ」VARIE1の第I期エリアがリニューアルオープン(2025年リニューアルグランドオープン予定)

11.1●コートヤード・マリオット銀座東武ホテルがリニューアルオープン

12.7●越谷駅高架下に「エキア越谷」がグランドオープン

1.31●SLにバイオ燃料(バイオコークス)を使用する実証実験を開始

3.1●SL大樹の乗車人員が50万人を突破

3.16●スペーシア Xを新たに2編成導入、全4編成とし毎日6往復の運転開始

4.26●新越谷駅直結の商業施設「新越谷ヴァリエ」2階・3階の第I期エリアがリニューアルオープン

5.23●N100系スペーシア Xが鉄道友の会「2024年ブルーリボン賞」を受賞

●竹ノ塚駅高架下に「エキア竹ノ塚」がグランドオープン

9.3●生体認証サービスの名称を「SAKULaLa(サクララ)」と発表し、本格展開を開始

11.1●東京スカイツリータウン累計来場者数4億人を突破

2.6トルコ・シリア地震発生

4.1こども家庭庁発足

5.19G7広島サミット開催

10.1インボイス制度導入

10.7イスラエル・ハマス軍事衝突開始

1.1能登半島地震発生

3.16北陸新幹線 金沢～敦賀間が延伸開業

7.3渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎がデザインされた新紙幣が発行

7.26パリオリンピック開幕

10.1石破茂内閣発足